

なみ

4月号

vol. 134



特集

区界浄土
ニシナリパラダイス

「かたちは同じ」
岸里3丁目付近にて撮影

区界周縁と海食崖

「南港通り」は、東に八尾市、西に住之江区の運輸、木場、鉄工所など湾岸のコンビナートを眼前に睨む。通りは上町台地を横断し、ほぼ中間地点の西成区と住吉区を南北に切り裂いて走る区界線の役割も果たす。ただし両区が接する区界距離は230メートル

地図帳の凡例では、市区町などを分ける境界線を「市区町村界」と称し、二点鎖線（—・—）であらわす。西成区は6つの行政区（大正・浪速・天王寺・阿倍野・住吉・住之江）と接し、西は木津川、東は上町台地、北は鉄道ターミナル、南は港湾部に誘導する動線をもつ街である。『なび』創刊当初「にしのりの境界線」というシリーズを掲載した。西成に接する境界線上に何かを発見する試みだった。そしてあらためて境界シリーズ「区界浄土 ニシナリパラダイス」を考えてみた。

区界線プロジェクト
佐々木敏明／安田拓也

霊園から覗く風景

「大阪市設粉浜霊園」に向かう。堺に囲まれた霊園は、区界である南港通りからは見えない。チン電の塚西駅前にある開かれた門扉をくぐると眼前に墓地が広がる。墓地の向こうに見えるのは、煩雑に見える木造

の境界線上を歩いた。

区界プロジェクトは、阿倍野を含む3区の境界線上を歩いた。

ほどと短く、西成区、天王寺区界（注1）と同距離だ。

区界の中心に東西南北を分ける交差点と、チン電こと阪堺線の塚西駅があり、東から下降する南港通りは、この塚西交差点付近で勾配を弛める。交差点の住吉側にはラーメン、飲食店など、西成側にはハンバーガーレストラン、コンビニ店などが並ぶ。線路を挟み南港通り東側には大規模マンション群が林立し、阿倍野区南端となるマンション「セントポリア」は、V字型地形に建つ。この位置は北から続く海食崖（注2）で、当マンションの西は急激な崖だ。坂の途中より西成区に変わり、崖下に老朽化した木造長屋住宅や霊園を形成する。

区界プロジェクトは、阿倍野を含む3区



特集

区界浄土 ニシナリパラダイス

4 時代を横断するくらしの風景



市設粉浜霊園…(左)陸軍歩兵の墓石(中央)明治時代の古碑文(右)無縁墓石



路地中ほど長屋のクリーニング店

の密集住宅の風景と、その背後に築50年のセントポリアが聳え立つ。6階建てだが、海食崖の落差により、霊園からは城壁のように見えた。

180年をまたぐ霊園

霊園は奥まって南北に広く、坂によって西側からは、墓石が階段状にひしめく。古碑文があり、「明治40年12月3日に当村墓地内にある400坪の荒地を開墾し、村民に寄付募集を行い霊園整備が行われた」と読める。墓地の拡張事業があったのだろうか」と佐々木の話だ。

墓石文字には風化して読み取れないものもある。うつすらと天保、寛政、弘化、嘉永、慶応と元号が並ぶ。明治以前のものが多く、「この墓の主人公たちは、老中田沼や水野、黒船来航とか桜田門事件をリアルに目撃してきた世代やね」という先輩の説明に驚く。

また「故陸軍歩兵何某碑」と書かれた軍人墓石の側面には、「明治37年 魏家樓子近郊於戦死ス」とあった。日露戦争の戦没者なのだろう。中には表面がひび割れ無縁化した墓石も多数見られ、墓石の放置は家族制度

路地で植栽や物干、洗濯機を表に置く家もあり、かつての昭和の暮らしを彷彿とさせる。唐突にクリーニングの看板が立つ。この

店の管理人である70代半ばの男性に話を聞く。「この辺にはユニークな人が多い」と語る彼もなかなかの経歴をもち、IT光学や服飾デザイナーとして活躍していたが、今はお酒が祟り「それでもやめられない」という。5年前にこの長屋に住み始め、ご近所の困りごとの相談に乗っている。ただ「ここは活発な地域交流は少ない。しかし束縛されず、お互い干渉しないこのまちは良いまちだ」と語る彼の言葉や表情に、少し侘しさを感

の崩壊に行き当たる。見ることもない他人のお墓は、江戸末期から平成の今に至る時間の重なりを感じさせてくれた。

長屋を改装、オシャレなカフェ

塚子から南港通りを東へ向う側道途中の、6軒ほど並ぶ長屋の一つをオシャレに改装したカフェと雑貨のお店「LUCÉ」にお邪魔した。屋時も過ぎ、子連れの奥さんらがお客だ。店主は藤本佳美さん。コーヒーのほか



カフェ＆雑貨「LUCÉ」。写真は店主藤本さん(左)とお客の奥さん

屋食メニューもある。店の内外には藤本さんが声をかけた9名もの作家の洋服や装飾品、靴や陶磁器、雑貨などが展示されていて委託販売する。季節感、個性ある作品が並ぶ。近くに自宅のある藤本さんにとっては「職住近接でメリットがあり、昨年2月にこの店舗を借りた」という。

「LUCÉ」は、粉浜1丁目のバス停が目の前にあり、年配の方が病院帰りに立ち寄り、通行中の若いカップルも外観に惹かれて足を止める。「お客さんのニーズにも応えながら、地域に愛してもらっている」と話す藤本さん。

この商店群は航空写真で、裏の墓地と南港通りにはさまれた細長い三角形の長屋と確認できた。鉄筋コンクリートの近代的建築に取り残された古い店舗だが、地域に根差し再生している姿には惹かれてしまう。

路地と長屋のくらし

LUCÉから東へ10数m登ると路地がある。海食崖であるセントポリアの裾壁にそって50軒ほどの木造の長屋住宅が1列に並ぶ。長屋の前は霊園の塀だ。ぶつかるほど狭い



阪堺電気軌道阪堺線塚子駅に停車するチン電

つなぐ安心

墓地、木造住宅、鉄筋の分譲マンションと、景観としては特異なグラデーションを描いている。江戸から平成に至るまで地域の時間は途絶えてはいない。しかし今新しいものが建つと少しヒヤつとする。一方、目の前を走るチン電には「貸切」の文字が点灯し、幼稚園児が電車を楽しんでいる。LUCÉ

墓地、木造住宅、鉄筋の分譲マンションと、景観としては特異なグラデーションを描いている。江戸から平成に至るまで地域の時間は途絶えてはいない。しかし今新しいものが建つと少しヒヤつとする。一方、目の前を走るチン電には「貸切」の文字が点灯し、幼稚園児が電車を楽しんでいる。LUCÉ

という地縁やゆかりのない店がいつのまにか居場所や集いの場となり、人を通して過去と未来を繋ぎなおされていく。そんな風景が心を安らがせてくれた。

文責：安田拓也 監修：佐々木敏明

(注1)「なび」17年12月号に掲載。

(注2) 山王や阿倍野霊園付近に高低差をもつ断崖がある。この断崖は海食崖といい、古代大阪湾の海水浸食した名残だ。今回の区界は、この海食崖が南に延伸したもの。



交流会も大いに盛り上がりしました



(上)最後は集合写真(下)楽しく元気なロゴ



シンポジウムの様子

地域こども

おう
えん



だん

第11回

子育てに取り組む人・団体・施設を紹介して、子どもを支えるネットワークをどんどん広げていきます！



確かにつながった
「食でつながるフェスタおおさか」

わずか4カ月後の開催

3月9日(金)、10日(土)と二日間にわたりしなり隣保館で「第2回食でつながるフェスタおおさか」が開催されました。去年11月に開催された第1回からわずか4カ月という短い準備期間でしたが、各団体とも年度末に自らの業務に忙殺される中、前回に取り組んだ経験を活かし、阿吽の呼吸で運営。講師・パネラーに加え参加者全員の熱心さを感じ取れるイベントになりました。

全国各地に広がる「こども食堂」

1日目は、地元西成での開催ということで横関西成区長が急遽、挨拶にかけつけてくれました。つづいて、鳥取市「地域食堂ネットワーク」の川口寿弘さん、高知県社会福祉協議会の間草さんの講演が行われました。川口さんからは、生活困窮者支援、子どもの未来応援計画など、市のあらゆる事業・制度と関連づけることで鳥取市あげての取り組みになっていること、また行政の強みを活かした企業との連携など、その気になればすぐにでもできる行政の取り組みについて貴重な話をいただきました。

間さんからは、こども食堂を小学校区に

1カ所立ち上げるという高知県の方針を受けて、様々な形の食堂や支援する団体・企業について話していただきました。高知県では2017年3月に20カ所だったこども食堂が10カ月で51カ所になったそうです。

盛りだくさんのシンポジウム・交流会

講演後は、コーディネーター、コメントーター、シンポジストが10人という前代未聞のシンポジウムが行われました。高齢者の食支援、プレパーク、母子生活支援施設、企業と現場をつなぐボランティア・市民活動センター、行政、活動を支援する財団などから、子どもの居場所を広げるために取り組んでいる事例・課題、思いが述べられました。3時間という長時間でしたがシンポジウムは時間切れとなり、議論は交流会に引き継がれました。分科会といっても過言ではないぐらい活発に意見が交わされました。

2日目も朝から熱い議論が

中身の濃い1日を終えた2日目は、「大人

が変わればこどもが変わる 居場所を通じて地域みんながつながり育ちあう社会に向けて」をテーマに、大阪府認定子ども家庭サポートの辻由紀子さんから講演をいただきました。ご自身の経験や調査の数値、各地での取り組みなど熱い内容の報告でした。次に、こども食堂に取り組んでいる4団体から報告と意見交換が行われました。始まるまでは、人前で話せないと言っていたパネラーのみなさんですが、それぞれ予定時間を上回る中身の濃い話をしてくれました。その後、にしなり☆こども食堂のカレーがふるまわれ、こども食堂、母子生活支援施設、自彊館、プレパークなど4カ所を見学し、プログラムは終了しました。

次は7月？

子どもを支える人や団体が集まり、お互いの活動や苦勞を聞くことで、新たなエネルギーが沸いてくる、そんな緩やかな組織が自然にできました。「次は7月」という声を聞きました、本当にありそうな気がします。

レポート… 寺嶋公典



【田岡秀朋】行政の福祉化の効果検証の報告書がまとまった。障がい者雇用人数だけでなく、経費的にみても、総合評価入札やエルチャレの就労支援の効果は高かった。



【佐々木敏明】着ぶくれて角刈りにされる植栽啓蒙や月が知せるわが無明のらが棲む地に寝屋が建つ寒戻り



【沖田一志】職場に置いてあるPCは安物で相当遅かった。ずっと前から使ってるタブレットPCの方がよっぽど速い。堪らずディスク換装(HDD→SSD)してみたら見違えるほど速くなった。快適、快適。

お風呂さん ものがたり

『西成区 銭湯』と検索すると、20件以上がヒットする。その数は他の地域と比べても群をぬいて、「西成は銭湯多いなあ」という声をよく聞く。そこで、それぞれの銭湯の特徴やオーナーのこだわり、歴史などを取材し、西成区の銭湯の魅力に迫っていく。少し銭湯に行きたくなるコーナー。



JR今宮駅からまっすぐ南。長橋小学校の東側にある銭湯。新今宮駅や地下鉄の花園町駅、あるいは南海の萩ノ茶屋駅からも徒歩圏。
 サウナ／蒸し風呂（ミストサウナ）／露天風呂／電気風呂／クリニックバス／水風呂／コインランドリー／マッサージ機などが設置され、特に毎月1回行われる露天の「生薬よもぎ風呂」が大人気。銭湯特集の記念すべき第1回目は有限会社都温泉の代表取締役・角谷正次さん（67歳）にお話をうかがった。
 — 都温泉の歴史を教えてください。
 「都温泉は1961年に設立して、今

一軒目 都温泉

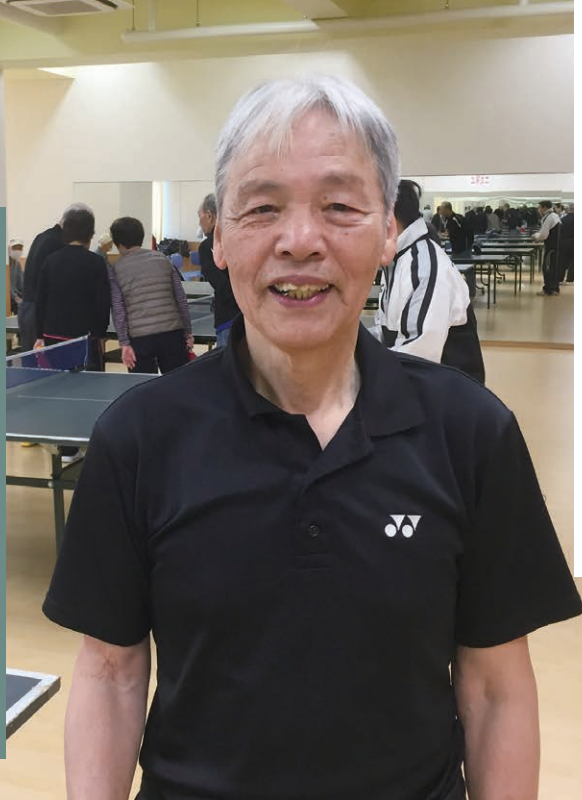
年で57年目を迎えます。私は2代目であり、26歳のときに代表取締役となりました。1990年に改装し、クリニックバスとサウナはその時に設置しました。サウナを設置したときは、たくさんの方がサウナを利用していました。
 — 一日の利用数は？
 「利用客は1日平均100名程度です。最も利用客が多かったときは1日200人以上ありました。年齢層は60代・70代が中心でそのほとんどが長年の常連さんです。ただ、利用客は少しずつ減少しています。
 冬の時期はお風呂で倒れる人が多く、高齢の方だけでなく、若い人も倒れることがあるので注意してほしいですね」。
 — 銭湯を営業する上で大切にしていることは？
 「徹底的に意識しているのは、当たり前ですが清潔さです。お客さんが銭湯を利用する目的は体を綺麗にすることです。その体を綺麗にする場が綺麗であることは絶対条件です。実際に毎朝6時から掃除を開始し、定休日も関係なく掃除をしています。お客さんの手の届かないような高い所についている窓も毎日磨いています。

座った椅子に少しでもぬめりなどがあつたら嫌な気持ちになるでしょ？どんな小さな汚れも見落とさないように気を付けています。
 もう1つは接客。常連さんの顔は全員覚えていて、初めて来るお客さんもすぐにわかります。気持ちよくお風呂に入って、気持ちよく帰ってもらうためには接客はとても大切だと思っています」。
 西成で温泉気分、四季折々の入浴を満喫したい人はぜひ一度足を運んでみてほしい。
 レポート…山村裕太



橋本 勝義（はしもと かつよし）さん

今月のおとなりさんは、橋本勝義（はしもと かつよし）さん。にしなり隣保館「ゆ〜とあい」の卓球サークルの会員さん。大好きなのは卓球、将棋、新聞、お孫さん。新聞社に40年勤務していたこともあってか、新聞各紙のコラム欄は「社会の動きを知るためのツールでおもしろい」とゆ〜とあいに来て毎日欠かさず読んでおられます。ほかにも英会話やパソコンなど関心のあることは何でも学んで生活に取り入れているみたい。
 いつもほんとに笑顔が素敵な橋本さん。その一番の笑顔は子どもや孫と一緒に居る時間。これから多くの時間を一緒に過ごして笑顔と身体を大切にしてください。今回は「とことんお孫さんLOVE」な、おとなりさんのご紹介でした。



6月 2週間のあそび

僕たちの暮らしには色んな「あそび」がある。少し早めの目覚まし、10時とか3時の休憩タイム、仕事終わりのアフターファイブ、毎日の小銭貯金など、モノゴトのゆとりとた。
 まちや建物にもあそびがあつて、日本では揺れることを想定して建物が建てられている。扉がキチキチだと動かないし、カーテンも窓の大きさとぴったり同じだとどうも頼りない。
 建材の継ぎ目を目地（メジ）と言い、四季によって寒暖の差が大きい日本では材料の伸縮を、そして職人さんの手仕事による小さな誤差を、あえて数ミリの隙間を作って吸収させる。また地震を想定して、ひび割れし易いところには、キレイに割れてくれるよう壁に溝を作り、そこだけ細くしておく。「あそび」を作るといふわけだ。
 まちにも、何があつた時に逃げ込む公園やグラウンド、火事の時に燃え広がらないための緑地帯や広い道路。
 このまちに多い路地は、心のあそびのようで、家から公道に出る手前の公私が混在したスペース。ここから日々の面白さが生まれそう。
 （安田拓也）



路地の途中で緑のカーテン

あそび

ハナレバナレになった人とまち。くらしの窓から、紡ぐヒントを探してみる。



【安田拓也】分譲マンションの共用スペースの改修。アンケートで出たいろんな意見よりも“やりたい”の声を大事にしたい。スペースの計画のみの仕事だけど建築に何ができるだろう。



【西田吉志】東映大森映画村に20年ぶりに行ってみた。時代劇と思って館内に入ったが、想像以上にアニメを推していた。そしてヒーロー達との握手会にこども以上に大人が並んでいたことに驚いた。



【寺島史規】3月4日に、区民センターで生涯学習フェスティバルが行われ松之宮生涯学習「和太鼓サークル絆」がトップバッターで2曲演奏。練習時間が少なく不安だったが、大きなミスなく終わり良かった。



【谷口円】奥山淳志 写真展「庭とエスキース」を鑑賞。作者が20年間撮り続けた「弁造さん」をめぐるドキュメンタリー。1人の人間の人生の質感に心動かされる、とても良い展示でした。

「まずは、おいでよ。」ゆ〜とあいには中学を卒業してから進路を一緒に考える場所と時間があります。そんな“フリースペース マナビバ！”の徒然な日常をお伝えします。

マナビバは毎週火・木曜日の10:00～16:00、ゆ〜とあい2階でオープンしています。
電話:06-6561-8801 Mail:info2@human-ref.jp



フリースペース「マナビバ！」終了のお知らせ

高校を中退した青年の居場所として2014年10月から始まったフリースペース「マナビバ！」は、2018年3月で一旦、お休みをさせていただきますことになりました。3年近くの間の運営に深く関わっていただいたAワック創造館（大阪地域職業訓練センター）や地元の小・中学校や西成高校など、多くの方々に協力いただいた活動が続けて参りました。誌面をお借りして、お礼を述べたいと思います。

高校を中退した青年や高校に進学せず就職も選択しなかった青年の実態が改善したわけではありません。マナビバに参加してくれた青年や相談に来られた保護者の方々の深刻さの一端を垣間見た時、マナビバの必要性、重要性は高いものがあることは間違いありません。ただ、極めて複合的な課題のため、居場所だけでなく、相談、医療、進学、就労など専門性と継続性が求められる課題でもあります。長期的な視点と専門的な支援が求めら

れる取り組みであります。新たな視点と体制で再スタートしていきます。

3年間でマナビバに来られた青年20名のうち、居場所に着した青年が8名。そのうち、アルバイトや就労に繋がった青年が5名、進学した青年が1名、2名が引き続き利用を継続してくれており、一定の成果をあげてきました。居場所としての機能は一端終了しますが、相談やネットワークの機能は、引き続き、にしなり隣保館「スマイルゆ〜とあい」が担っていくことになりました。3年間どうもありがとうございました。

文責：阪井 茂



い湯がげん

「我が事丸ごと」に想うこと

振り返って、1999年に社会福祉の基礎構造改革が提唱され、2000年12月には「社会的援護を要する人々への社会福祉のありかた」が発表された。その頃、大阪府は未曾有の財政危機にあったが、「まちかどデイ（介護予防）や「行政の福祉化（施設や事業の福祉活用）」、「地域就労支援事業（雇用の中間支援）」などの改革に取り組み、功績を今日に残した。2002年の同和対策法終焉の善後策を探っていた部落解放運動は、この改革に共感し、在野で少なからぬ役割を担った。ボクもその渦中にいた一人だった。

20年近い歳月を経た現在、厚労

省は「我が事丸ごと」というフレーズで地域福祉を改正社会福祉法で再定義した。社会保障給付額が20年前のおよそ2倍にも膨れあがった国の財政事情が背景にあり、自治体や地域への「他人事」「丸投げ」という「上からの地域福祉」との懸念は拭いきれない。一方で、この20年、自治体や地域からの「下からの地域福祉」が成熟してきた紛れもない事実も背景にある。財源を置き去りにしたままの「厚労省の総務省化」であっても、この改革の機会を逃す手はない。「隣保館の再生」というリアルな目標を持った部落解放運動も、この改革にコミットしてほしいものだと願う。その渦中に

いる解放運動の仲間は、多数、分野に広がっている。

この社会福祉改革のポイントには二つに絞られると思う。一つは、縦割り福祉を包括型福祉に変えるということなんだが、肝は「人材」だ。単体の福祉でも人材が枯渇しているのに、包括型となれば人材不足は深刻だ。ちよつと唐突だが、自治体もいつまでも「公務員」だけじゃなく「自治体職員」の登用に踏み込むべきだと思うし、社会福祉法人も「法人経営」から「地域経営」へと踏み出すことではないかと思う。NPOや社会運動もまた、「中間支援」への問題意識を広げて、どの領域が先駆をとるかに競い合ってほしいものだ。

もう一つのポイントは「住民参加」。ここでは、あれこれの方法論に先立って、「民主主義のつくり直し」が肝になると書いておきたい。民主主義とは「みんなの問題をみんなで決める」システムのことで、住民参加の原点だ。「みんなの問題」の「みんな」は「当事者性」のことで、社会福祉では受

先日、中学校の同窓会入会式があり、挨拶に行った。今年で第70期を迎え50数名が卒業する。歴代の卒業生の仲間入りというわけだ。ただ、同窓会の会長をさせてもらっているのもなんだが、第70期まで続くこの学校の同窓会とは何なのか？ ふと疑問に思った。

大学のように会報を毎年発行するわけでもなく、卒業と同時に機械的に入会するだけなら、何の意味があるのかわからない。数年前までは卒業と同時に入会会費を納めていたが、今はそれもない。これまでの営みを何のためらいもなくやり続けるだけという組織の問題なのか？

どうも歴史のある組織ほどそういう問題が起こるような気がする。昨日と同じ明日。変化させることへの勇気がわからない。しかし、そんなことでは新しいことや必要に応じた変化を起こすことはできない。組織の現状を正しく認識して、新たな方向へ失敗を恐れず勇気をもって本当に必要なことを進めたい。

（寺本良弘）

皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。



【若松司】1年越しの話題。「付度」って悪いばかりじゃないけど、意思決定の責任が問われる場面になると、とても厄介。国の政治の場面だけじゃない、身近にある問題。



【山村裕太】最近10代や20代前半の人たちとカラオケにいくと、わからない歌が多く、「山村さんは懐メロ好きですね」と言われます。人はこうしてオッサンになっていくのでしょうか。

地域の縁を心でつなぐ



先日買ったテレビの大きな画面に映った映像を見てみると、幸せな気分になります。ときどき「買い替えるたびに大きくなるのがテレビ、小さくなるのがお仏壇」と聞きます。テレビは「物」、お仏壇は「心」の象徴だとすると、今日、多くの人が求めるのは「心」よりも「物」の豊かな生活であるが見えてきます。

豊かな生活には、お金で買えるものと買えないものがあります。高価な物を身につけ、高価な車に乗ることも豊かな生活にちがいありませんが、収集だけで終わる人生は虚しいものです。まして高価な物を身につけることで自分が偉くなったと思うことには賛同できません。持ち物を自慢する人生よりも、持ち主である自らの人格の向上を大切する人になりたいです。それには「豊かな心」「強い心」「正しい心」が重要です。

お金で買える幸せが「心」の幸せを見つめる眼を閉じさせるようでは残念です。真実の「信用、信頼、愛情、尊敬」をいただける人生は「心」豊かな幸せな生活です。「心の時間」の目指すところでもあります。

松向寺 通法

部落差別って減ってるの？ 増えてるの？

この数ヶ月、にしなり隣保館の貸室利用が若干増え、イベントも開催されるようになってきた。そうすると、初めて隣保館に来る人も増え、必然的に「隣保館って何ですか？」という質問も増える。隣保館の説明をしていくうちに部落差別の話になることが少なからずあった。

部落差別のことを知っている人、知らない人双方に共通する質問は、「まだ差別はあるんですか？」だった。市民の結婚や住宅などの意識調査結果やヘイトスピーチやネット上での差別事象を説明するが、どこまで伝わったんだろう？

一方、部落出身者の結婚差別に関する『結婚差別の社会学』を著した斎藤直子さんも参加する「ネットワーク kakekomi 寺」には結婚差別の相談が今も絶えないとのこと。

運動や行政の成果で部落差別事件は大きく減ったが、部落差別を知らない人が増えて、結婚差別の相談も減らない現状。ここは隣保館としての腕の見せどころになるのではと考えた。

COUNT 2.99

隣保館などで事業を行う中で感じたことをつぶやいて、西成のまちづくりに役立てていきます！



なび編集長 寺嶋公典

smile
ゆーとあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆーとあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび4月号(vol.134)

発行日:2018年4月1日(創刊日:2007年1月1日)

発行:株式会社ナイス

住所:大阪市西成区長橋3-6-33

電話:06-6563-1156

E-mail:info@nice.ne.jp

url:http://www.nice.ne.jp/

編集長:寺嶋公典

編集:沖田一志、佐々木敏明、田岡秀朋、

寺島史規、西田吉志、安田拓也、山村裕太、

若松司(あいうえお順)

イラスト:hidarimaki デザイン:谷口円

facebook: <https://www.facebook.com/navi.nishinari/>

facebook

